

Google Book Searchと 情報制度上の諸問題

110715@東京大学

生貝直人 naoto@ikegai.jp

クリエイティブ・コモンズ・ジャパン 理事

プライバシー

- 「読書のプライバシー」はいかに守られるべきか？
 - クラウド型電子書籍サービスの場合、ある人が「どの本の、どのページを、いつ、何回読んだか」は理論上は全てサーバー上に保存され得る
- 問題 : 読書履歴の商業的利用の是非
 - 読書履歴は個人の趣味・嗜好を強く反映するため、行動ターゲティング広告への応用可能性が高い
- 問題 : 国家(捜査機関)への開示
 - 匿名の情報摂取は修正第一条で保証されており、図書館や書店での貸与・購入履歴の強制開示も控えられてきた
 - 和解案ではグーグルは「個人を特定し得る情報に関しては、正当な法的プロセスを除き開示を強制され得ない」とされるのみ

プライバシー

- 正当な法的プロセス: 令状、愛国者法 (Patriot Act) 他
- 「自主的な」捜査協力・情報開示が行われる可能性もある
- CDT (Center for Democracy and Technology) の提言:
 - グーグルは集めたデータの種類・目的・保持期間・利用技術・アクセス権・誤使用の保障等を全て明らかにし、全ての情報の消去権をユーザーに与え、
 - ページ数や閲覧回数等詳細な情報は原則収集せず、また収集された情報はGBS以外のサービスに原則利用されるべきでなく、政府に対しても原則開示しないことを保証するべき

競争政策

- Why the Google Books Settlement is Procompetitive? (Einer Elhauge, 2010)
 - PD (著作権切れ) の書籍市場: (a) デジタル化のコストをグーグルが負担し、(b) いずれの作品がPDなのかが特定されることでむしろ競争圧力は向上し、(c) 同市場に加え現行書籍市場にも競争圧力をもたらす
 - 通常の商業書籍市場: (a) 出版社に対して無料の広告スペースを提供するとともに、(b) いずれの書籍のデジタル版に需要があるかの情報を提供することにより、競合他社の新規参入を促す

競争政策

- － 孤児作品市場: GBSによって商業的販売の経路が生まれ、利益配分のレジストリを創設するは、現在不明となっている著作権者が名乗り出るインセンティブを生み出し、競合プラットフォームの参入障壁を下げる
- － 機関契約市場: 同市場でGBSが独占性を持つという指摘があるが、(a)GBSは既存の機関契約市場に新しい選択肢を加えることに他ならず、(b)その価格はまさにGBS自身が生み出す競合との競争に晒され、(c)さらにGBSは広告収入を主としているため競争的価格を付ける誘因は強い
- － 視覚障害者市場: あらゆる書籍が読み上げ利用可能となることにより、同市場の競争圧力は高まる

オープンコンテンツ

- 2009年8月、GBSで書籍を公開する際に権利者がCCライセンスを選択できる機能を実装すると発表
- GPLやGFDLを管理するFSFから「GBSはオープンコンテンツに配慮する必要」という問題提起
 - 問題1: その書籍が、CCやGFDLでライセンスされている、あるいはパブリックドメインであることを正しく伝えているか？
 - 問題2: パブリックライセンスに存在する「反DRM条項」との整合性
 - CCライセンス(表示2.1-JP)5条f項:「あなたは、この利用許諾条項と矛盾する方法で本著作物へのアクセス又は使用をコントロールするような技術的保護手段を用いて、本作品又はその二次的著作物を利用してはならない。」
 - GFDL(v1.3) 4-J “Preserve the network location, if any, given in the Document for public access to a Transparent copy of the Document, and likewise the network locations given in the Document for previous versions it was based on.”

文化自前主義

- 「文化・遺産」に関わる事項は本来各国政府に委ねられた問題領域では？
 - 自国の権利者を代表しない集団訴訟によって一律オプトアウト方式などもってのほか
 - 「more access to the European cultural heritage (Europeanaより)」を何故外国の一企業が？
 - ジャン＝ノエル ジャンネー[2007]『Google との闘い 文化の多様性を守るために』
- 検索エンジンの独占性と中立性に関する問題が、書籍市場においても生じるのではないか？
 - “Jew”キーワードに代表されるように、各国の文化的信念に反したような情報検索にならないか
 - 「グーグル八分」に代表されるような、私的検閲が生じることはないか(現実的にはむしろ国家による検閲をいかに担保するか？)

文化自前主義

- 文化的例外 (Cultural Exception) の存在
 - GATTウルグアイラウンド(1986~)におけるフランスの強い主張により、文化製品(映画やオーディオビジュアル等)は1993年に自由貿易協定の例外を認められる
 - 結果としてEU各国の映画市場は軒並み米国製シェアが90%前後なのに対し、フランスは60%前後
 - フランスとカナダに主導されたユネスコ文化多様性条約(2005)において認められる(前文に”cultural activities, goods and services ... must therefore not be treated as solely having commercial value”等)
 - 公式Q&A[16]ではGATTを参照しつつ”film and audiovisual ones in particular”と例示
- もし書籍アーカイブがCultural Diversityの重要な対象と認められれば、個別(パートナーシップ)展開も制限し得る？

文化自前主義



My Europeana | About us | Communities | Partners | Throughout | [Choose a language \(2\)](#)

Europeana usage guidelines for public domain works

Give credit where credit is due. When you use a public domain work, please credit the culture or creator. Please also credit the institution (such as the archive, museum or library) that provided the work, as the more you credit the institution the greater the recognition for public domain works and the wider their use.

Protect the reputation of creators and providers. When you use or modify a public domain work you should not attribute the changes to the creator or the provider of the work. The name or logo of the creator or provider should not be used to endorse the modified work or any use of it unless it is expressly intended.

Work against for the original work. Please do not use the work in any way that is abusive and disrespectful. When you modify and redistribute a public domain work, any changes made to the original should be clearly indicated. You should label the work to show you have changed it, so that others can be aware of the changes.

Work against for the creator. If it is possible, as provider or instead of the creator (as an institution) a public domain work should not be changed or that it should be used in certain contexts only, then please respect their wishes.


Share knowledge. If you use a public domain work to generate new work or if you have additional information about it (such where it came from, its history, context or other possible rights holders) please share your knowledge. That may include tagging, archiving or commenting on a public domain work that is published online and sending back this information to the institution that holds the original copy.

Be respectful online. If the work includes publicly available information, you should not change or use them in ways that might be derogatory to other cultures or communities.

Support efforts to enrich the public domain. Users of public domain works are asked to support the efforts of cultural and scientific institutions to create, preserve, digitize and make public domain works available. This support should be given on any conditions or work is used, particularly when the work is being used for commercial or other for-profit purposes and the provider is a not-for-profit institution.

Assess public domain works and institutions. Users of public domain works should not remove any information or metadata that has been applied, or provide misleading information about its copyright status.

This usage guide is based on goodwill, it is not a legal contract. We ask that you respect it.



Europeana usage guidelines for public domain works by [Europeana Foundation](#) in [Bernese](#) under a [Creative Commons Attribution 3.0 License](#)

欧州最大の電子図書館Europeana
<http://www.europeana.eu/portal/index.html>

Public Domain Tool



CC0

作品の著作権を「可能な限り
完全に放棄する」ツール



Public Domain Mark

その著作物が「パブリック・ドメイン
であることを明示する」マーク

集中権利管理組織

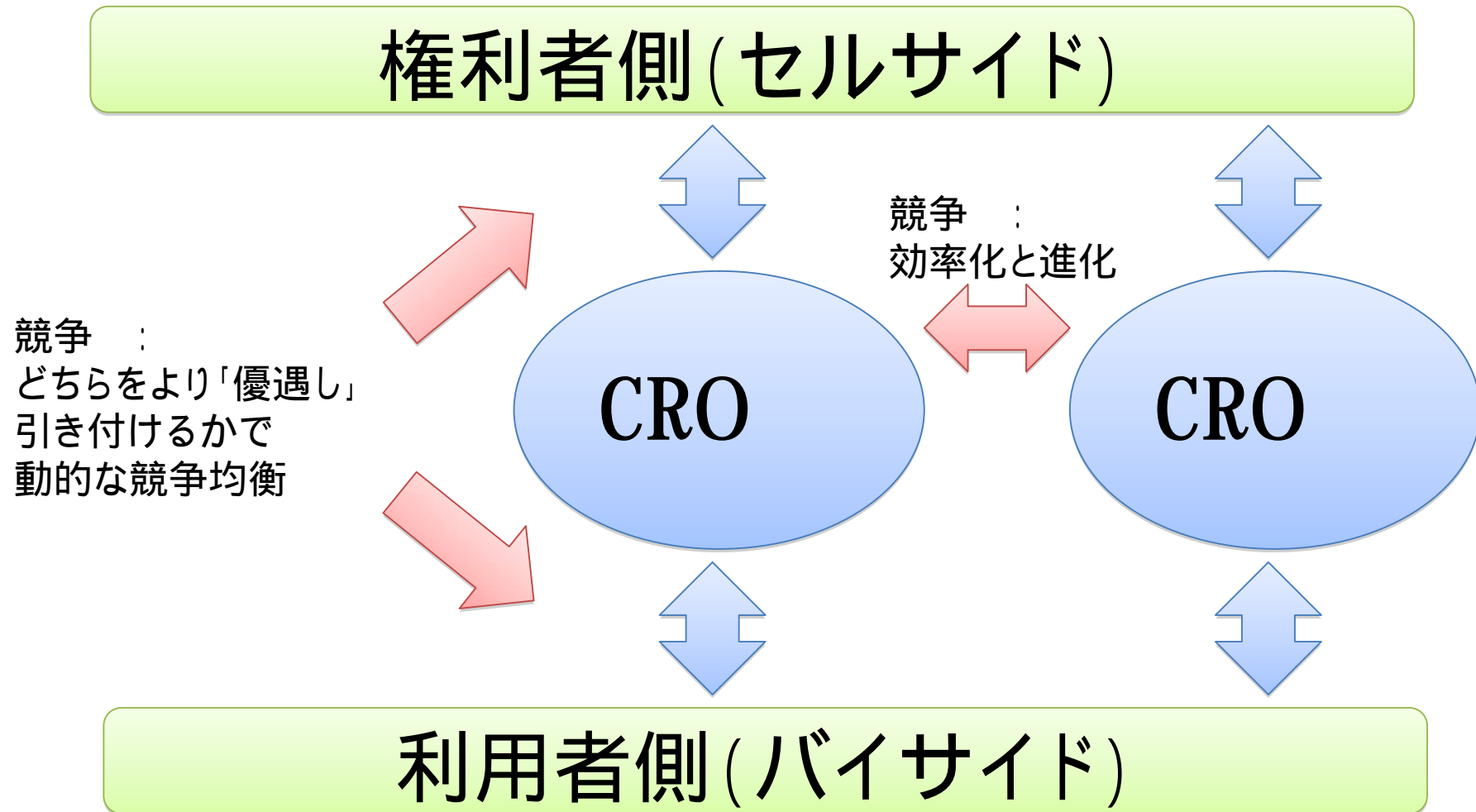
- ACS(代替的補償システム)としての「CRO(集中権利管理組織)」と「Levy(強制ライセンス)」: CROの方がLevyよりも
 - 機敏な変更をしやすい(議会プロセスは時間がかかる)
 - ロビイング耐性が強い(権利者・利用者とも、気に入らなければ別のCROに乗り換えれば良い)
 - 不参加の選択肢が残る(プレミアム限定のコンテンツビジネス等が可能になる)
- ただし上記は下記の2点を成立条件にしている
 - 複数のCROが競争的に存在している
 - 意思決定のための取引費用が高すぎない

(以上主にMerges[2004]”Compulsory Licensing vs. the Three “Golden Oldies””やFisher[2004]”Promises to Keep”等を参照)

集中権利管理組織

- GBSレジストリは前掲の条件を満たしているか
 - CROの競争(複数)性:そもそも世界規模のレジストリを作ろうという発想なので競争は存在し得ず、かつ実質的に「不参加」の選択肢も採り得ない
 - (欧州では2008年に「各国のCROは市場分割を行わずEU域内で広く活動すべき」というコミュニケ)
 - 取引費用:参加するステイクホルダーの数と多様性が過大であり、機敏な意思決定は望み得ない
- そうであれば、ACSの仕組みを採らず個別契約に頼るか、あるいはACSであっても強制ライセンスを採用する選択肢もあり得る？

参考：CRO間競争と多面市場 (Multi-Sided Market)



合意形成プロセス

- 米政府・議会は「議会の仕事」と主張するが、本当に議会で合意を得ることができるのか？
 - 孤児作品法案も数度に渡り廃案
 - GBSクラスアクションを参照軸として米議会は合意形成を行うことが容易になったと考えられる
 - 「”代替的”合意形成プロセス」としての司法の役割
 - 合意形成に議会が最適とは限らず、場合によっては司法に委ねることが望ましい場合もある
 - ロビイング耐性(田村)、交渉・合意費用

我が国の電子図書館構想への示唆

- プライバシー：
 - 国立国会図書館が主導すると、より政府のログ活用は問題とならないか？逆にログデータの民間活用の可能性をいかに担保するか？
- 競争政策：
 - 民間のデータベースやサービスとの相互接続をいかに担保するのか？
- 文化自前主義：
 - 「結局グーグルに流れ」ない継続的な革新を実現できるのか？どこに「国際」競争力の重心を置くのか？
- 集中権利管理：
 - 柔軟性、進歩性、ロビイング耐性、自由なビジネスをいかに担保するのか？
- 合意プロセス
 - いかなる経路で公正かつ円滑な合意形成が可能なのか？